



2年目を 迎えて

所長 佐藤 広洋

下北教育事務所に赴任してから2年目となりました。昨年度の「教育だより」では、所長公舎の庭に、カモシカが現れたというお話をさせていただきました。今年度も庭に現れるかなと思っていましたが、なかなか現れません。ぜひ会いたいと思っているわけではないのですが、何度か見かけた仲なので、昨年を無事に越せたかなと思っておりました。そうした中、5月の中旬に、所長公舎から下った坂道の交差点付近で、カモシカを見かけました。カモシカは、横断歩道付近に立ち止まり、信号機が赤色なのを確認したかのように、横断歩道を渡らずに海側に歩いていきました。昨年見かけたカモシカかどうか分かりませんが、以前見かけたカモシカと比べるとやせ細り、毛がボサボサでした。昨年度に引き続き、カモシカの話を書きました。

さて、6月になりますと所長訪問が始まり、前期・後期に分け各学校を訪問させていただいております。前期の所長訪問は、主に校長先生に異動がなかった学校を中心に訪問させていただいております。今年度も、各学校から提出いただいた資料を基に、校長先生の経営方針や各学校における様々な取組などを確認させていただき、訪問する際の参考とさせていただきます。御協力、本当にありがとうございます。

所長訪問のため各資料を拝見させていただくと、新型コロナウイルス感染症への対応の変化に合わせ、これまで制限が加えられてきた教育活動をそのまま復活させるのではなく、その必要性を十分確認した上で、子供たちにとっての教育効果が大きくなるような取組の工夫がなされていました。また、学校行事等についても、子供たちの主体性を促しながら、教育上必要な部分を焦点化するとともに、働き方改革の視点も加えられた取組が多く、多くの学校で確認することができました。

今回の「教育だより」がお手元に届くころには、後期の所長訪問がスタートしていると思いますが、前期の訪問で印象に残った取組等を御紹介したいと思います。

ある小学校6学年の取組です。学級担任が、普段の教育活動をもっと活気付けたいと考え、子供たちの先輩である学区内の中学校の活動を見学させたところ、子供たちは中学生の勢いや迫力を感じ取ったのか、その後の教育活動が見違えるほど充実したものとなった

そうです。この取組は、学級担任が発案し、校長先生に相談して実現したそうです。日頃から、校長先生は、学校目標を実現させるため、「その気にさせる」をキーワードに位置付けているとのことでした。校長先生の言葉が、子供たちだけではなく、教職員の「その気」も引き出したのかなと思いました。

また、所長訪問では、保健室利用者がいる場合を除き、保健室も訪問させていただいております。保健室の取組についてもいくつか御紹介したいと思います。

一つ目は、保健室前の廊下に置かれた脂肪模型（サンプル）の展示についてです。サンプルは1kgと3kgがあり、サンプルの横には、それぞれの重さを減量するために必要な運動量も示されておりました。間近に健康診断が迫っている私としては、実際に触れ、重さを感じる（サンプルを袋に入れ、肩から担ぐことができる。）ことで健康管理の大切さを身にしみて感じることができました。養護教諭の先生からは、所長訪問の前日の集会で、健康的な生活習慣の確立を目指した講話を行い、その際に脂肪模型を活用しながらの説明は、非常に効果的な指導になったとのことでした。

二つ目は、保健室前の廊下に貼られた掲示物についてです。模造紙に、幹と枝が描かれた木があり、枝には子供たちの身長に見合った高さ「葉っぱ」が貼られていました。養護教諭の先生からは「身長を計測することで、自分の健康に意識が向くきっかけになれば」と説明をいただきました。「葉っぱ」は、頻繁に更新されているとのことでした。なお、一番高いところにある「葉っぱ」は、校長先生の「葉っぱ」でした。

三つ目は、子供たちが描いた絵がいっぱい貼られている保健室です。養護教諭の先生に「特定の子供が描いているのですか？」と聞いたところ、雨が降って校庭で遊べなかったとき等に保健室にきた子供たちが描いた絵だそうで、描いているときに交わす「子供たちとの会話が大事です。気になる場合は、担任の先生に相談します。」とのことでした。

下北管内の教育課題の一つに、心身の健康に関する問題を抱える子供が増加していることが挙げられます。各学校においては、子供たちが充実した学校生活を送ることができるよう様々な取組がなされており、その一翼を担っているのは、養護教諭の先生であると強く思うとともに、学校全体で子供たちの成長を支える仕組みが大切であると再度確認させていただきました。

最後に、季節は秋、年度も後半に向かっております。教育事務所としましては、前半に引き続き管内の教育の更なる充実のため「教育は人づくり」という視点を大事にし、取組の軸足が子供中心となっているかを確認しながら、これからも課題解決に向けた取組を進めていきたいと考えております。

令和5年度上半期を振り返って

教育課長 大島 忍

令和5年度がスタートし、既に半年が過ぎ、今年度も後半戦に突入します。計画訪問や9月までの主管事業を予定通り全て終えることができました。各学校、管内各教育委員会の御理解と御協力に感謝申し上げます。

上半期の事業を振り返り、共有したいことを述べさせていただきます。

計画訪問より

新型コロナウイルス感染症が5類になり、従来の教育活動を展開できる環境が整いつつある中、各小・中学校及び公立幼稚園の協力を得て、町村10校と1園、むつ市内19校(同行訪問)を訪問させていただきました。管内の市町村教育委員会及び各学校の御理解と御協力に心より感謝申し上げます。

町村の小学校6校、中学校4校の訪問を通して、次のようなよさや課題を感じました。

- ☆ 学校課題を明確にし、その解決に向けた方向性が示されている。(学校経営方針の明確化、校長のリーダーシップ)
- ☆ 日々の教育活動をカリキュラムマネジメントの視点で見つめ、教育の質の向上に努めている。(前年度の教育活動を振り返り、児童生徒の実態に合わせて教育計画の見直し・改善が行われている)
- ☆ 児童生徒一人一人を大切にされた教育活動を展開している。「一人一人のよさや可能性」「一人一人の夢や目標」などを、学校運営のキーワードとしている)
- ★ 学校課題や学校経営方針の修正・変更に伴う諸計画の見直しまで進められていないところもある。

これらのよさは、当たり前といえば当たり前のかもしれません。しかし、子供たち一人一人の夢や志の実現のためには、学校運営の基盤となることではないでしょうか。

目の前の子供たちは、日々成長しています。昨年度と全く同じということはないのです。

ですから、われわれも日々学び続け、よりよい実践を追い求めていく必要があるのです。

複式学級担任者研修会より

6月16日(金)に大間町立奥戸小学校を会場に『複式学級担任者研修会』を開催いたしました。当日は、三浦匠教頭先生によるオリエンテーション、佐藤日向教諭による5・6年算数の複式学年別指導の授業を公開していただきました。授業の様子からは、その基盤となる学級経営、教師と子供たちの人間関係のよさ、そして、奥戸小学校の子供たち一人一人に身に付いている「複式での学び」がうかがえました。

研究協議では、近年希に見る多くの参加をいただき(風間浦小、佐井小、牛滝小は全教員の参加)、6つのグループによる活発な話し合いが行われました。

「複式での学び、複式での指導」は、確かに2学年分の教材研究や同内容指導、合同学習など、学級担任の負担は大きいです。

しかし、複式で学ぶ子供たちの「学びの姿の向上」「主体的な学びの姿」というプラスの面もあるのです。「複式での学び」により、子供たちの「自ら学ぶ」「学びを振り返る」「学びを調整する」という力の向上が期待されると思います。そして、複式指導の経験が、**教師の授業力の向上**にもつながっていくものと思います。奥戸小学校での研修会において、これらのよさを共有できたことは大きな財産となりました。



『オンライン授業質問箱』より

今年度の新たな取組として、大間町、風間浦村、佐井村の小・中学校を対象に「オンライン授業質問箱」をスタートしました。授業づくりの悩みやヒントについてZoomを使い、直接先生方と指導主事が話し合います。

既に利用が始まっており、利用者からは、「面談の中で自身の取組を見ていただき、助言をもらうことで自信や意欲につながった」という感想をいただきました。日常の授業や校内研修を進めるに当たり、手軽に相談できる環境としてぜひ御利用いただければと思います。

チーム学校として機能するために

改訂された「生徒指導提要」の第1章の、「1. 3 生徒指導の方法」には、学級担任が一人で抱え込まずに生徒指導主事等と協力し、機動的連携型支援チームで対応すること、対応が難しい場合は、生徒指導主事や教育相談コーディネーター、学年主任、養護教諭、SC、SSW等校内の教職員が連携・協働した校内連携型支援チームによる組織的対応が重要となると記載されています。管内小・中学校においては、不登校対策委員会やいじめ防止対策委員会等を設置し、「チーム学校」として不登校支援やいじめの未然防止に取り組んでいただけていることを有り難く感じています。しかし、昨今学校現場で起こっている様々な問題行動は、複雑化・多様化しており、学校（教師）だけで解決できない問題も増加しているのも事実です。そのような深刻な問題には、校外の関係機関等との連携・協働に基づくネットワーク型支

指導主事 増山雄宇
援チームによる地域の社会資源を活用した組織的対応が必要となります。

使命感が強い先生方は、学校で起きた問題行動については、学校（教師）で解決しようと思う傾向が強いと思います。実際に、私もそうあるべきだと考えていました。しかし、社会の変化に伴い、教員の専門性をもって全ての問題や課題に対応することが、児童生徒の最善の利益の保障や達成につながるとは必ずしも言えない場合があり、想いだけでは適切な支援につながらないこともあります。

目の前の子供たちが、何に困り感をもっているのか、なぜ困っているのかについての適切な児童生徒理解に基づき、アセスメントするとともに、教師の領域外のことは関係機関や専門職に橋渡しすることが、本当の意味でその子供の支援につながっていくのだと思います。

若手の育成で、組織力の向上を

4月から初任者研修を担当し、拠点校指導教員や校内指導教員、そして、初任者の先生方と多くの関わりをもたせていただいています。近年、教員のなり手が減少していることに加え、業務の多忙化、生徒指導の困難さ、個別対応などいろいろな課題が見られ、教員の育成、資質向上はさらに重要なものになっています。

青森県総合学校教育センターで行われている、フォローアップ研修で、採用2年目の先生が書いた悩みには、「生徒指導、児童理解」「授業での指導」「校務分掌・仕事に対する責任」という回答が多く、その内容を詳しく見てみると、個別の支援が必要な子供または保護者とのコミュニケーションに関する悩みが多かったそうです。悩みはメンタルヘルス不調を招く要因にもなります。ですから、悩みを解決するため、組織としての適切な対応が重要になってきます。


指導主事 川島学
先日、初任者研修校長等連絡協議会において、拠点校指導教員や各校の指導教員の先生方から、初任者研修を進める上での課題や効果的な取組についてお話を伺うことができました。人手不足や時間の確保が課題として出された反面、順調に初任者研修を進めているとの意見もありました。初任者研修が順調に進められている学校では、初任者の家庭訪問に学年主任やベテラン教員が付き添う、学年団で子供の情報を共有し学年全体で対応している、生徒指導主任に情報を集約し、学校全体で対応している、といった組織的な支援体制が構築されていました。そして、それは初任者だけでなく、学校の全ての先生方の負担軽減にもつながると思います。できないことをできるように工夫することで、全ての教員が組織としてつながっていくと感じました。

令和5年度 下北教育事務所 教育課 分掌組織

TEL : 0175-22-8581 (内線番号は下記一覧に記載) FAX : 0175-23-8609
E-mail : E-SHIMOKITA@pref.aomori.lg.jp

| 職・氏名 | ○担当教科、分野 ・主な担当事業 | 職・氏名 | ○担当教科、分野 ・主な担当事業 |
|---|---|---|---|
| 教育課長 大島 忍  (内線300) | ○教育課総括 ○学校・社会教育全般 ・研修派遣 ・「あおもりで働こう」小学校教員魅力向上事業 | 主任指導主事 長内 人志  (内線301) | ○外国語活動、外国語 ○学校教育総括 ○教育課程 ○授業の充実 ○国際化に対応する教育 ・学校訪問 ・管内行事調整会議 |
| 主任社会教育主事 藤田 幸博  (内線301) | ○生涯学習・社会教育総括 ○学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成 ・地域と学校とのパートナーシップ強化事業 ・学校・家庭・地域連携協働推進事業 | 指導主事 川島 学  (内線292) | ○算数、数学 ○特別活動 ○初任者研修 (赴任時研修、示範授業研修、特別活動研修、一般授業研修、まとめ研修) ・入試関係 |
| 指導主事 新松 美代子  (内線294) | ○理科、生活、総合的な学習の時間 ○特別支援教育 ○へき地・複式教育 ・特別支援教育巡回相談 ・地区就学相談・教育相談会 ・子ども発達相談連絡協議会 ・「下北の教育」編集 | 指導主事 増山 雄宇  (内線294) | ○社会、図画工作、美術、道徳 ○生徒指導・教育相談 ○キャリア教育 ○道徳教育 ○情報教育 ・SC・SSW配置・派遣事業 ・オンライン「授業質問箱」 |
| 指導主事 竹林 千亜紀  (内線292) | ○国語、音楽 ○研修の充実 ○幼稚園教育 ○人権教育 ・臨時講師等研修会 ・教育課題連絡会議 ・学習状況調査結果等説明会 ・「教育だより」発行 | 社会教育主事 兼 指導主事 佐藤 和也  (内線292) | ○体育、保健体育、技術・家庭 ○体育・健康教育 ○環境教育 ○生涯教育、社会教育 ・新体力テスト ・中堅教諭等資質向上研修 ・冬季学校体育実技講習会 ・防災教育関係 |

SSW (スクールソーシャルワーカー)

| 氏名 | 主担当校 | 氏名 | 主担当校 | 氏名 | 主担当校 |
|--|------------------------------------|--|---|--|---|
| 小川 勉  (内線299) | 関根小・中 近川中、奥内小 大湊小・中 東通小・中 | 四戸 浩  (内線298) | 田名部中、むつ中、 第一田名部小 第二田名部小 第三田名部小 苫生小 大間小・中、奥戸小 風間浦小・中 | 伴 高助  (内線299) | 大平小・中 川内小・中 大畑小・中 正津川小 脇野沢小・中 佐井小・中 牛滝小 |

★オンライン「授業質問箱」受付中★～授業の悩み、相談してみませんか？～

【利用期間】令和5年7月10日(月)～令和6年3月8日(金)

【対象者】大間町、風間浦村、佐井村の小・中学校教員

【申込手順】①利用することを管理職に口頭で報告

②申込用QRコードより、必要事項を入力

→その後、担当指導主事より面談実施日等の確認の連絡をします。

「指導案づくりが難しい…」「効果的な振り返りの方法はないかな？」など、日頃の悩みや疑問を一緒に解決しましょう！ 忙しい先生方の力になれば嬉しいです。

申込はこちら
↓↓↓



↑まずは、読み取って
みてください。